

【樹木の部屋】

キシマツツジ (ツツジ科ツツジ属 Rhododendron obtusum)

和名：キシマツツジ (霧島躑躅)、キシマ **別名**：クルメツツジ

英名：Kurume Azalea、

ツツジ目 常緑低木

原産地：日本

花言葉：燃え上がる愛

花色：赤



← 写真-1 キシマツツジ

撮影日：2020 年 05 月 01 日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん

↘ 写真-2 キシマツツジの花

撮影日：2020 年 05 月 01 日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



← 写真-3 キシマツツジの蕾

撮影日：2016 年 04 月 22 日

撮影場所：大和郡山市郊外にて

撮影者：M さん



←写真-4、5 キリシマツツジの新葉(表と裏)
 撮影日：2020年05月01日
 撮影場所：大和郡山市郊外にて
 撮影者：M さん

日本特産のツツジの一つ。一品種ではなく、多彩な品種を総称してキリシマツツジと呼ぶそうです。鹿児島県下の霧島山の山中に自生するツツジの中から江戸時代初期に選抜されたもので、江戸を中心に爆発的に流行した花木です。日本最古の園芸書『花壇綱目』(1681年)や『錦繡枕』(1692年)などに多数の品種が記載されているそうで、その後全国に広がり、各地に古木が残存しているそうです。また、日本のみならず欧米でも、江戸時代末期から明治時代に輸出されたものが今日でも重要な造園用樹として盛んに利用されているそうです。

キリシマツツジは、小枝をよく分枝する性質で花つきもよいので、満開時は木全体が花色に染まって見えるほどです。花びらやガクの形状は品種によって少し違いがあるそうです。一つの木に複数の品種が混在して咲いていたり、特徴が似過ぎたりして判別が難しく、多くの園芸品種があるそうです。庭木や公園木、鉢植や切花に使われています。4月から5月に枝先に雄蕊は5本で萼片は小さく、直径2~3cmの花を2~3輪つけます。葉は広い楕円形で、長さは2cmくらいと小さく、縁には毛があり、互生します。

大きさを維持するには、毎年の刈込みが必要です。当年枝で、葉を少し残した程度の強さで剪定するのが基本だそうです。時には、混みすぎた枝を抜いたり、前年枝までの切戻しも良いそうです。翌年も花を咲かせるには、剪定は花後すぐ~6月までに行ないます。翌年の花つきをより良くするために花殻摘みを行ないます。

病害としては褐斑病、花腐菌核病、もち病、ペスタロチア病などがあります。害虫としてはツツジグンバイ、ベニモンアオリンガ、ハダニ類(フシダニ)、ゴマフボクトウ、ルリチュウレンジなどです。

<ちょっと一言>

クルメツツジは、キリシマツツジの園芸品種。